

鶴ヶ島農業物語

鶴ヶ島には、日々自然と向き合いながら農業を営む多彩な“農業びと”がいます。

今月号では、農業を取り巻く様々な課題に直面しながらも、自分の決めた農業道を一步前へと歩き続ける彼らの取組みを紹介します。

これを機会に、ぜひ地元農産物をご賞味ください。

問合先 産業振興課農政担当



(写真上) これからの鶴ヶ島の農業を支える“若手”の皆さんに集まっていただきました

(写真下) 採れたての野菜や果物、花などをJAいるま野鶴ヶ島農産物直売センターに出荷する皆さん





いしかわつとむ のりこ
石川彊さん・典子さん



Interview /

市内(富士見4丁目)で果樹園を営む石川さんご夫妻。長年作り続けてきたその想いを伺いました。

安心安全をモットーに作り続けて約60年

石川さんが、富士見地区で農業を始めたのは、昭和30年代。まだ区画整理がされていませんでした。そのため、水はけが非常に悪く、この土地は畑作には向いていないと判断し、梨とぶどうの果樹栽培を選びました。

「当時は近くに教えてくれる人もいなくて、素人が一から始めたようなものでしたが、試行錯誤をくり返し、なんとか今日までやってきました。気が付いたら半世紀以上が経っていました。地域の方々から「毎年楽しみにしている」、「今年も美味しかったよ」と

声をかけてもらうと、また来年も頑張ろうと意欲が湧いてきます」。

鶴ヶ島と農業

「鶴ヶ島の農業は、地域・消費者の皆さんと密接に関わっている」と話す石川さん。

「私の果樹園も住宅街の中であり、すぐ隣には民家があります。地域の皆さんの理解があつてはじめてここで農業を続けることができます。できるだけ農薬を減らし、肥料も有機にこだわるなど、様々な工夫をしています。これからも市内唯一の梨・ぶどう農家として、安心・安全で、かつ美味しいものを追及し、皆さんに提供したいと思っています」。

子どもたちに伝えたい

石川果樹園には、毎年、栄小学校の子どもたちが見学にやってきます。

「もう40年くらいになるでしょうか。自分はもう80歳を超えたので、お断りしようかとも思うのですが、子どもたちの笑顔を見ると、なかなかやめられません(笑)。

子どもたちには、自分の家の近くにも農家があつたことを覚えていてほしいです。また、梨やぶどうに直接触れて味わうことで、農業を身近に感じ、関心を持つてくれればうれしいです。それが、将来の鶴ヶ島の農業の活性化につながっていくと私は信じています」。



梨は、幸水や豊水、彩玉(埼玉県オリジナル品種)などを中心に、ぶどうは、藤稔やシャインマスカットなど、時期を少しずつずらし多品種を栽培しています。



農業びと

想いを味わう



なぐもたかし
南雲卓さん

後進のために 農業を伝えたい

18歳から始めた農業。両親がちょうどトマトのハウス栽培を始めた頃でした。以来、トマトやきゅうり、なすなどを中心に栽培し直売所に出しています。昔とは農業を取り巻く環境が変化し、鶴ヶ島でも後継者不足や農地管理が課題となってきました。今は、長年の経験を活かし、後進の育成にも力を入れています。昨年は、JAが主催する「農業塾」で講師を務めました。農地はあっても始め方が分からない人や、新たに農業に取り組みたい人などを対象に、私の知っている

限りの知識を教えています。若い人たちが農業に希望を持って取り組めるよう、環境を整えてあげることも私の役割だと思っています。



よしざわまさひと しげよし
吉澤正人さん(左)、茂義さん(右)

もったいない「トマトロス」をなくす 親子2代の挑戦

茂義さん トマト農家として2代目、現在は息子と一緒にトマトのハウス栽培を中心に行っています。今年からトマトジュースの製造も始めました。形が悪いなどの理由で、これまで捨ててしまっていたトマトを活用するための新たな試みです。トマト農家として経営していくためには、栽培から販売までを自分たちで行う「6次産業化」は大きな課題です。これからも様々な工夫をしながら、消費者の皆さんに美味しいトマトを提供したいと思っています。

正人さん これまでの仕事を辞め、2年前から実家を手伝うようになりました。父が“いいもの”を作っているの、それを引き継ぎたいと思ったからです。今は師匠である父にトマト栽培を学びながら、経営などについても少しずつ勉強しています。

鶴ヶ島の農業

鶴ヶ島には、現在、288戸の農家があります。市の農業就農人口の平均年齢は、約66・4歳と高齢化が進んでいます(2015年農林業センサスより)、若手後継者や新規就農者など、農業を志す人も出てきました。

鶴ヶ島では、露地野菜を中心に多品目を栽培している農家の割合が高く、その多くが直売所や市内のスーパーマーケットなどに出荷しています。それらは、有機肥料を使い、農業を最小限に抑えるなど、安心・安全にこだわったものばかりです。野菜などを買うときは、ぜひ、地場産にご注目ください。

農業が支える「食」 私たちが支える「農業」

私たちの生活に欠くことのできない「食」。農家の皆さんは、旬の野菜や果物を栽培し、私たちの食生活を支えてくれています。一方で、鶴ヶ島の農業・農家もまた、消費者である市民の皆さんに支えられています。

地元農家の皆さんの思いがたくさんつまった農産物をぜひ味わってみてください。



鶴ヶ島の

想いに触れ

新規就農者
(研修生)の
2人を紹介



いしぐろ みお
石黒未麻さん

美味しい野菜を食卓に

まだ1年目なので、色々な野菜を少しずつ作っています。3年目位になると土のバランスが崩れてくると聞いたので、今後は栽培する作物を選択していきたいと思っています。指導農家さんや、先輩方にアドバイスをもらいながら、美味しい野菜を作り、たくさんの人に食べてもらいたいです。



うちのしんじ
内野慎伍さん

俺の農業 その先を目指して



一般企業で働きながら、実家の農業を手伝っていましたが、12年前、農業一本でいくことを決意しました。現在は、秋冬の収穫に向けて、ブロッコリーやキャベツ、白菜などを栽培しています。今は、野菜が中心ですが、将来的には、果樹栽培などにも挑戦したいと思っています。実は、野菜よりも果物の方が好きなので(笑)。自分が本当に美味しいと納得できるものを作って、鶴ヶ島の皆さんに食べてもらいたいです。数年前、大雪が降ったときには、ハウスが全壊し、栽培ができなくなったことがありました。自然相手なので、大変なことも多いですが、自分のやり方次第で無限に可能性が広がるのも農業。これまでの農業を引き継ぎつつ、新たな取組みにもどんどんチャレンジしていきたいと思っています。



やすだ たけし
安田武志さん

コツコツと細く長く

サラリーマンを辞め、農業をやろうと決意。今年、鶴ヶ島にやってきたばかりです。最初は、トマトのハウスを建てるのに3か月位かかり、とても大変でした。今後は、研修などにも積極的に参加しながら、より良い栽培方法を追及し、細く長く農業を続けていきたいと思っています。

ここで買えます /



JAいるま野鶴ヶ島農産物直売センター

【住所】高倉84-1 ☎285・3433
【営業時間】9時～17時(金曜定休)

JAいるま野カインズ鶴ヶ島店農産物直売所

【住所】三ツ木新町1-1-13 ☎287・6646
【営業時間】9時～20時(元旦定休)
※市内のスーパーでも販売しています!

主な鶴ヶ島産農産物出荷カレンダー

品目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
きゅうり												
にんじん												
ねぎ												
トマト												
ほうれん草												
小松菜												
大根												
なす												
ブロッコリー												
白菜												